Ａ分科会（概要）

幼児理解に基づいた評価の在り方	（協議の視点） 指導の過程を振り返りながら幼児の理解を進め，幼児一人一人のよさや可能性などを把握し，指導の改善に生かすようにするためには，日々の保育の記録等やその活用について，どのような工夫が必要か。

【三原市立中之町幼稚園の提案について】

１　研究主題

「幼児理解に基づいた評価の在り方を求めて」

～幼児一人一人のよさや可能性を見つめるための日々の記録の工夫～

２　取組の概要

（１）研究の方法

・　遊びに生かす個人記録の工夫

・　遊びの記録をもとにした教師間の共有と，環境構成・教師の援助に生かす評価の工夫

（２）研究体制の工夫

・　研究主題についての理論学習と意見交流

・　“乳幼児期に育みたい５つの力”に視点をあてた個人記録や遊びの記録の見直し・改善について意見交流を重ねる。

・　改善を加えた記録の方法で実践したことを再度検討し，評価の在り方について深める。

３　協議

【質疑応答】

○個人記録用紙「すてき☆発見」カードの５つの力の視点について，捉えに差が生じないように，教師間で共通認識されたのか。

・記録を見直すと，記録の少ない視点が明らかとなったため，教師間で言葉の捉えが一致していないのか，幼児に身に付いていないのかについて確認した。すると，教師間で言葉の捉えを共有することができていないことに気付いた。そこで，県で示されている「乳幼児期に育みたい５つの力」を参考に再度，共通認識を図った。また，見取りの違う記録内容がある際には，個々の教師の記述内容と幼児の姿を照らし合わせ，教師間で幼児の姿を共有できるように話し合うことを大切にした。

○個人記録用紙「すてき☆発見」カードの改善を図る中で，月・火・水曜日に絞って記録を記入するように改善されていた。週の後半に，見られた幼児の変容や遊びの発展などの記録はどのように扱っていたのか。

・水曜日までの遊びを振り返ることで，水曜日以降の遊びが広がるように，教師の援助の視点を整理した。そして，水曜以降の幼児の姿については，週案の記録と連動させて，反映するようにした。

○全園児分の記録をとっているが，毎日，継続していくことが可能なのか。また，何人もの幼児や，いくつもの遊び内容を捉えようとすると，捉えが浅くなるのではないか。

・毎日，記録を取り続ける難しさを感じた。反省をもとに，期間を設けず，幼児の興味ある遊びや幼児の変化に合わせ記入を続けている。自分たちが見て分かり易く，使い易い記録に改善していきたいと考えている。

○個人記録用紙「すてき☆発見」カードの５つの力の視点は，遊びの内容によっては，重複しているこ

ともあり，視点を分けて捉える難しさがあったのではないか。

・視点の５つの力が影響し合って，幼児の姿に繋がっていることが分かり，視点を分けて幼児の姿を捉えることの難しさが生じていた。そのため，一週間毎の「内面理解」の欄は項目を区切らずに，５つの姿をまとめて捉えるように改善した。

・１学期分の幼児の記録を読み返すことによって，幼児の成長を捉えることができた。この記録を反映させた２学期の計画を立てようと考えている。記録内容は，表面上の内容にならないよう，要点を絞るように考えている。

【結論】

（１）継続して記録する。

・記録は，小さなメモでよいので，とにかく気になったことを書く。そうすると焦点化されてくる。記述している教師には，その教師なりの視点がある。記述する中で，気付くことがある。エピソードを書き，話し合うことが大切である。記述の継続は，力となる。

（２）幼児の姿，幼児の思いに沿って記録を取る。

・記録を取る際には，幼児の実際の姿から，「吹き出し」等を活用して整理することができる。「吹き出し」は幼児の姿，幼児の思いに沿って記述・表現をしていくとよい。このような記録の取り方により，幼児の育ちや変容を視点として捉えていくことができる。反面，始めから視点を絞って幼児の姿を見ようとすると，幼児のよい場面や映像が見落とされることがある。視点とは，「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」のように，多様に見られる幼児の姿に何が育っているのかを捉える際に，有効である。そして，幼児の育ちにとって何が大切かということが分からないと視点を絞ることはできない。

（３）持続可能な記録方法を考える。

・記録用紙は，持続可能な記録方法を考え，各園で工夫を図ることが必要である。記録する物が多すぎると教師の負担は増していく。週案に個人記録を記述することも一つの方法である。また，写真を活用すると，遊びの場面を思い出し易くなる。また，個別の成長記録等から個々の幼児に育っている姿にラインを引くと，評価につなげて考えることができ，ねらいに生かして週案を作成することができる。週案は，写真や吹き出しを環境構成図に加えると，より分かり易いものになる。週案の記述の仕方は，幼児毎に課題意識が異なるので，クラス毎に，多少の違いがあってもよい。週案は，幼児理解に基づいた評価の「最大公約数」であることが大切である。

（４）幼児の姿を評価し改善を図る。

・幼児の発達は進んだり停滞したりを繰り返す。事前の計画をもっておかなければ，どこで発揮されたのか分からず，幼児の育ちの状況を見逃してしまう。評価は，教師の期待した方向に向かっているかを捉えることだけでなく，個々の幼児がやりたいことができているかについて評価をし，改善を図ることが大切である。

（５）教師間で意見交換をする。

・教師間の話合いの場面等では，自分の知りたいことを周囲に開示すると，よりよい意見をもらえる。今後の指導に生かせる情報を提供してもらい，意見交換をすることで今後の指導の工夫や改善につなげていくことができる充実した話合いとなる。